

日本銀行
帯広事務所長

田原謙一郎



14歳になった十勝ファンの少年（筆者の次男。普段は東京在住）と「オンライン晩飯」をしていたら、最近、学校でSDGs（持続可能な開発目標）の授業があったという。
数人ずつのグループに分かれ、各グループでSDGsが定める17のゴール（目標）から一

つを選ぶ。そのゴールを目指し、自分たちの会社でどんな事業をするかを話し合うというものだ。少年のグループでは14番目の「海の豊かさを守ろう」を選んだ。海のプラスチックごみの中からペットボトルを回収し、再生した繊維素材でスポーツフアッションを作る会社を考えたそうだ。

地球温暖化の関係では、牛のげつぶからも温室効果ガスの成分が出るというので、少年は少し心配になった。一方で、十勝をドライブしたときに見かけたパイオガスプラントや太陽光パネルでの発電など再生可能エネルギーの活用が、脱炭素化に貢献する取り組みの一つであることも学んだ。

系に基づく土づくり、ふん尿処理対策、後継者の育成や労働力の確保など、生産基盤をより確かなものにする取り組みが続いている。生産力の向上とともに、生産工程の管理など安全安心な農畜産物を作る取り組みも進められてきた。今後、消費者が十勝という産地を理解しようとする際には、十勝の農畜産物がどのように作られ、環境にどのような影響があるのかという点

門における気候変動問題への取り組みが活発化していくことを期待した施策だ。
カーボンニュートラルの実現を目指す2050年までに、少年は40代の大人になっている。「この先、これまでの行動を変えたり、やらなくちゃいけない事も出て来るけど、それでも環境って大事だと思う？」とあえて少年に聞いてみた。返事は「もちろん！今の僕の生活が続けられなくなるのは嫌だもん」これからも住める場所が必要でし

持続する十勝

かちまい 論壇

十勝には、温室効果ガスを吸収する森林資源が豊富にある。環境対策に積極的に取り組む自治体や企業・団体も数多くある。ゼロカーボンの取り組みの輪を広げ、地域における機運を醸成する取り組みも道内で先行して始まっている。

気候変動問題への対応においては、金融部門が果たす役割への期待も大きくなっている。日本銀行でも、金融機関による多様な気候変動対応の融資を有利な条件でバックファイナンスする、新たな資金供給オペレーションを昨年導入した。これが一つの呼び水となって、民間部

今回はSDGsの環境の側面に焦点を当てたが、経済も社会も環境の上に成り立っていると思う。今すでに大人の自分も改めて自分ごととして、何が環境に良い活動なのか考え、学びながら、必要な行動を実践していかねばと感じた。